



明文字
紅印

真興

鶯や冷酒はあきしふふ吹

あつちと日月にちる月夜に 文里

春の父入物おつちるきき火柱 斗外

世のけもの草にふりけ 鱧の腹 季三

この竹よりまうは我ぬ小枝川 春里

